

# 偕行現代考

## 中国の新兵器開発

井上 廣司 陸自72

中国の習近平中央軍事委員会主席は、今年1月4日の軍幹部を集めた会議で、「有事への即応」を指示するとともに、建国70年の節目の年にずば抜けた成果を収めるよう訴えた。米国との貿易摩擦において守勢に回っている現状を踏まえて安全保障面では絶対に妥協しない姿勢を強調したものである。

その中で目立っているのが、海軍力の増強である。米国防略国際問題研究所(CSIS)によると、単純に艦艇数(潜水艦を含む)を比較すれば、中国艦艇数は300隻を超えており、米海軍の287隻を上回っている。当然ながら空母1隻を擁する米軍との戦力差は大きいものの、中国は建造ペースの速いコルベット艦を積極的に内海化している南シナ海に配備して、局地的な制海権の獲得を狙っている。

空母建造も進めており、現在2隻目を大連で、3隻目を上海で建造中である。また最新鋭の駆逐艦「055型」を建造中である。「055型」は、ミサイル駆逐艦であるが、米国防総省年次報告書(2017年)ではその規模か

ら巡洋艦と位置付けている。

2017年に商業衛星写真により、上海市の江南造船所の船台にて1、2番艦、大連市の大連造船廠のドックにて3、4番艦の4隻が同時建造されているのが確認され、江南造船所で5番艦のモジュールが確認されている。2018年には大連造船廠にて6番艦の建造が始まっていることが確認された。

中国軍は、4月23日の海軍創設記念日に合わせて青島で国際観艦式を計画しており、日米を含む約70カ国に招待状を出している。この観艦式に空母遼寧とともに2隻目の空母や最新鋭駆逐艦「055型」を就航させたいようである。

この駆逐艦に搭載させようとしているのが「レールガン(電磁砲)」で、1月3日の中央テレビは、巨大な艦載砲を紹介し、米軍が未だ実用化に至っていない「レールガン」の開発に成功したと報じ、大型艦艇に装備されると予告した。

昨年中国の最新兵器開発の動向に詳しくDafeng Caoのツイートによれば、揚陸艦に中国独自の電磁レールガンとおぼしき巨大な砲壇兵装が搭載された写真が発見されている。

「レールガン」は砲内部のレールに電気を流し、電磁誘導で弾丸をマッハ6以上の超音速で発射するものであ

る。当然破壊力も高く、射程は約200kmと言われている。

米軍は長年この兵器の開発を続けており、デモビデオも公開されているが、実際に艦載された事実は確認されていない。

環球時報は、「レールガン」がアジア最大の駆逐艦「055型」に搭載されるとの専門家の分析を掲載した。

現在建造中の駆逐艦「055型」は、昨年から試験航海を始めており、今年中の就役は確実である。112基のミサイルと最新の艦載レーダーを備えており、中国海軍空母群の主力艦となる。

また、中国中央テレビは、1月8日、米軍の監視が困難な中国北西部にグアムの米軍基地を射程に収められる中距離4000kmの展開映像を報じた。

中国軍事筋の観測によれば、10月1日の建国記念日の軍事パレードに合わせて、核兵器搭載可能な最新鋭ステルス戦闘爆撃機「H(轟)20」の初飛行が行われる可能性がある。

「H(轟)20」は尾翼のない全翼機で、外観は米軍のステルス爆撃機B2とよく似ているとされる。国営中央テレビは8月、「新型長距離戦略爆撃機「H(轟)20」の研究開発で重大な進展があった」と報道した。環球時報英語版は軍事専門家の見方として、電子機器

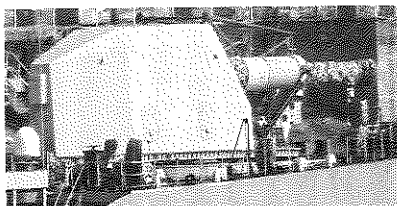
などのテストを終え試験飛行が近いという見方を伝えている。

開発の存在は2016年9月1日、吉林省長春市での「空軍航空開放日」にて中国人民解放軍空軍司令馬曉天上将によるスピーチにより明らかにされた。

昨年米国防総省が公表した中国の軍事動向に関する報告書によると、「H(轟)20」の航続距離は8500km以上と推定される。一方環球時報は「H(轟)20」の航続距離を1万2000km以上とみる専門家の分析を伝えており、中国軍は米軍の拠点であるハワイを標的として視野に入れている可能性がある。

中国の狙いは、西太平洋において米軍の優位を崩す狙いがある。

(参考：読売新聞1月10日朝刊)



Dafeng Caoのツイートによる写真